



# デターユ島

南緯66度52分 西経66度48分

## 主な特徴

- デターユ島の歴史的な英国基地 W



## 概要

地形	デターユ島は、ルーベ海岸沖のラルmundfjordenにある。砂利のところもあるが、大部分が岩でできている。
動物相	デターユ島で繁殖する動物の記録はない。
植物相 (植生)	詳細な植物相調査がなかったため、デターユ島には地衣類1種しか記録がない。
その他	「基地W」は、第83南極史跡記念物に指定されている。基地は島の北端にある。英国の科学基地で1950年代後半の姿をほぼとどめているものとして注目に値し、当時の基地の様子を知ることができる。1956年に建設され、1959年に近づけなくなったため閉鎖された。その後、1965年～66年に6カ月間使用された。基地が使われたのはわずかな期間であったが、その間に、国際地球観測年 (IGY) の地球物理学プログラムに貢献した。基地の建物に加えて、犬小屋、緊急用倉庫、燃料用ドラム缶や貨物倉庫、風速計塔、無線マストなどがある。

## 訪問者の影響

既知の影響	なし。
潜在的影響	火災。小規模な燃料漏れ。歴史的工物の攪乱

## 上陸要件

船舶*	乗客500名以下の船舶 (次の「訪問者」の項も参照) *。一度に1隻の船舶に限る。 1日あたり (午前0時から翌午前0時まで) 2隻以内で、そのうち乗客200名を超える船舶は1隻までとする。
訪問者	探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に50名以内。基地の内部への訪問者数は、常に12名以内に限る**。 訪問者はよく指示に従わなければならない。「基地W」は、英国が第83南極史跡記念物に提案した。小屋への訪問は、当事国から事前に許可を得た場合のみ可能である。訪問に先立ち、本地区を管理する当事国に通知をしなければならない。

## 訪問地区

上陸地区	小屋の南側にある小さな湾が好ましい。
閉鎖地区	中央の小屋以外の建物は立ち入り禁止。
ガイド付き徒歩地区	なし。
自由散策地区	訪問者は細かい指示を受けた上で、自由散策が許されている。

## 訪問者の行動規範

上陸後の行動	小屋での宿泊は禁止されている。緊急時を除き、小屋への訪問は教育目的に限られ、他のいかなる目的にも利用してはならない。 小屋の窓は板でふさいであるので、室内を見るには懐中電灯が必要である。 工作物に触れたり、持ちだしたりしてはならない。椅子などの家具に座ったり、テーブルや作業台に物を置いたりしないこと。 建物に入る前に、長靴や上着から雪や砂を払うこと。リュックサックや大きな鞆は小屋の外に置いておくこと。 訪問後、砂利、泥、雪を掃いておくこと。
--------	--

\* : ここていう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。

\*\* : 訪問者は自らの責任で基地を訪問すること。英国政府機関は、個人の怪我や財産の損傷に対して責任を負わないものとする。

# デターユ島

南緯66度52分 西経66度48分



小屋の中や周囲での喫煙のほか、ろうそく、マッチ、コンロの使用は禁じられている。「基地W」には、危険物を含め、非常に多くのものが中央の小屋の中や周囲に残っているため、歴史的にきわめて興味深い。訪問者は、一見、ゴミとして捨てられたように見えるものでも、いっさい触れたり、動かしたりしてはならない。

割れたガラスや建物の周りに突き出ているくぎにも注意すること。

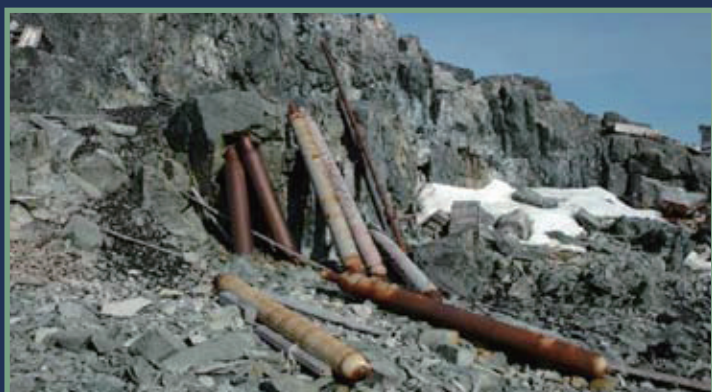
訪問時には、基地内にある訪問者簿に記録を残すこと。探検リーダーは「基地W」の状態に関する報告書を英国のAntarctic Heritage Trustに提出しなければならない。

訪問者は、出発の際、基地を安全かつ確実に閉鎖して立ち去ること。

ボートの操縦者は、上陸地点に接近する際に海面下の岩に注意すること。

上陸地点の岩場は、濡れているとすべりやすい。

## 注意事項



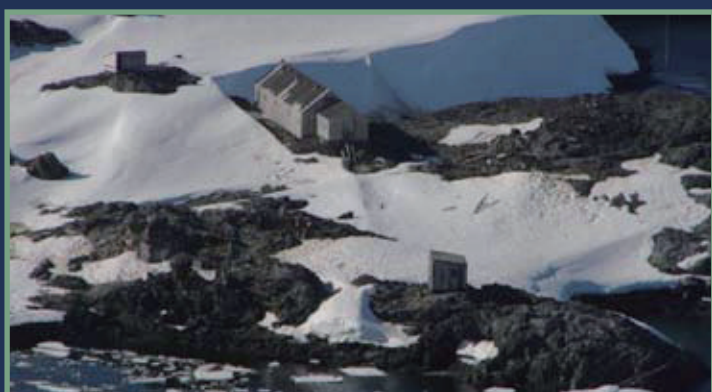
小屋の外に捨てられた（気象観測用気球を膨らますための）使用済みの水素シリンダー



調理場のAGA調理器具



発電機小屋に設置されたままの発電機



上空から見た中央の小屋。手前に緊急用倉庫、奥に犬小屋が見える。

